

透析施設最前線 Vol.3

HOSPYPグループ 新生会第一病院



■ はじめに

HOSPYP(ホスピー)グループは、医療法人名古屋記念財団、医療法人新生会、社会福祉法人新生会の3法人のもと、2つの病院、5つのクリニック、身体障害者支援施設、地域介護施設などを名古屋市南部から近郊の東海市、知多市にかけて展開する医療・福祉施設グループである。同グループの発祥は、1971年に腎不全患者の社会復帰を支える施設として開設された、名古屋クリニック（現新生会第一病院）である。以来、順調に発展を続け、現在ではグループ全体の年間透析患者数1,100人以上、救急搬送受け入れ数年間5,000件を数え、地域に不可欠の存在となっている。末期腎不全の治療の選択肢である血液透析、腹膜透析、在宅血液透析、腎移植のすべてを施行できる施設はわが国でも限られるが、同グループはその数少ない施設の1つである。

さらに、同グループの大きな特徴として、開設以来、腎不全患者のケアとキュアに関して地域有数の高い水準を維持してきたこと、その水準の維持・向上に看護部の自立的活動が大きく貢献していることがあげられる。

そこで看護師の自立的活動を原動力の1つとして発展したHOSPYPグループの現在をお伝えするため、グループ全体を率いる太田圭洋理事長はじめ看護部を中心に延べ30人の方々から、グループ全体を統括する理念、看護部の日々の活動の基本、看護教育システムの効率的運営などについてお聞きした。

■ HOSPYPグループの発展経緯

HOSPYPグループの創設者である太田和宏会長が、同グループの発展の基礎となる名古屋クリニックを開設した当時(1971年)は、愛知県内に透析が行える施設はほとんどなく、透析装置の設置台数もごくわずかという状況であった。1970年代半ばに入り、人工透析が徐々に普及するとともに透析患者が増加してきたことから、東海クリニックや金山クリニックなど、透析サテライト施設を順次開設し、透析医療の質の向上と規模の拡大を図った。



太田圭洋理事長

グループの名称について太田理事長に伺ったところ、「HOSPYP」は、Hospitality+Happyから生まれた造語で、人間味のあるあたたかさや健やかで幸福であることを願うモア・ホスピタリティ、モア・ハピネスの意が込められているという。また、グループの理念として「ホスピーは、健康文化を創造します」をはじめ、「ホスピーは、奉仕し、人々に心の平和(やすらぎ)を与えます」、「ホスピーは、常に夢を持ち挑戦を続けます」など、組織の考え方をあらわす合言葉を掲げ、理念の浸透と士気の高揚に努めている。

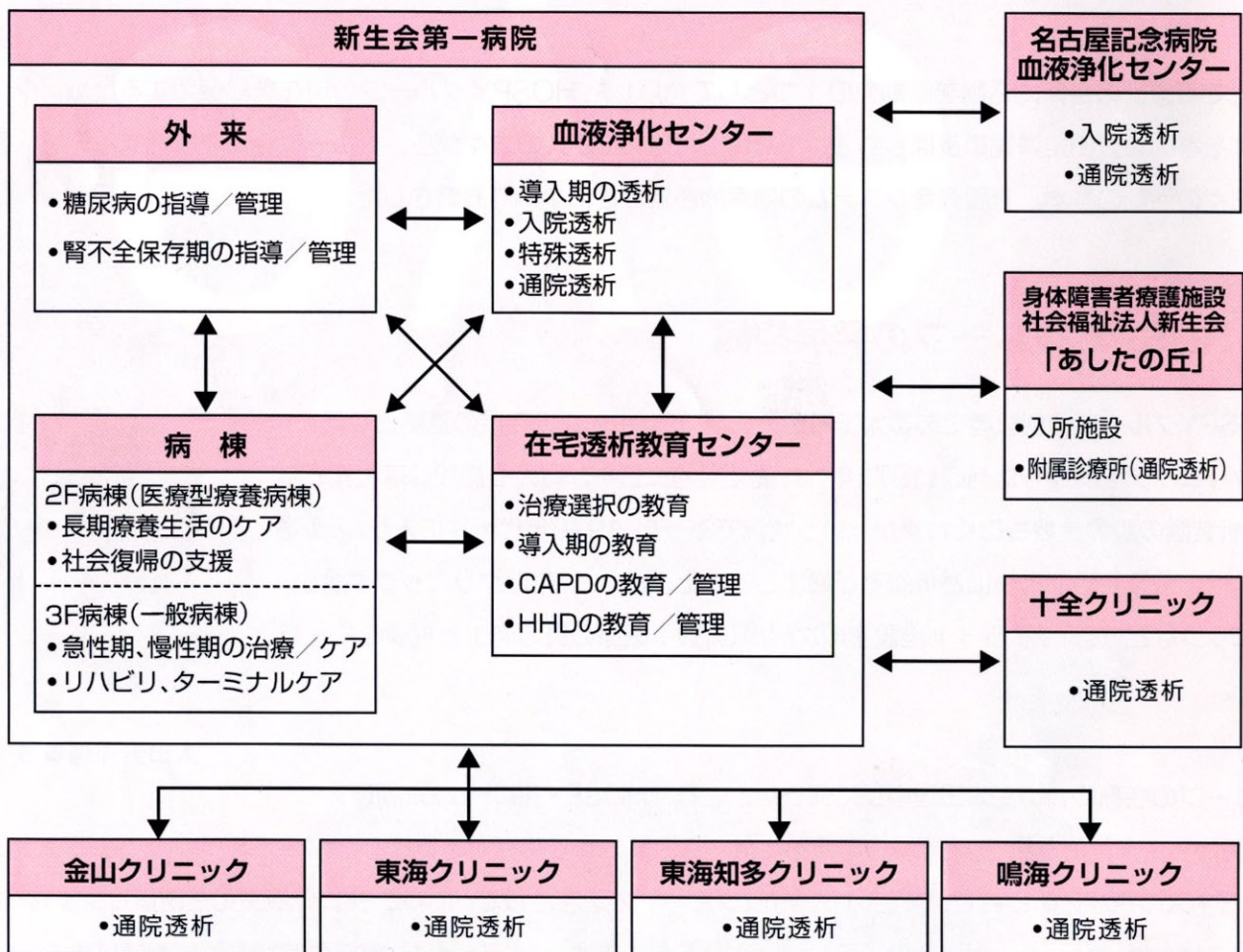
■ HOSPY グループ全体で慢性腎不全患者を支援

愛知県内でも有数の民間医療福祉グループに発展したHOSPYであるが、透析医療についてはその黎明期から積極的に取り組んでおり、常に最高の治療を提供することをグループ全体の目標としてきた。通常、末期腎不全の治療の選択肢は、血液透析、腹膜透析、腎移植の3つであるが、同グループでは在宅透析にも力を注いでおり、これら4つの治療をグループ内で提供できる体制を整えている。

また、看護部の教育システムも充実しており、「看護師自らが考え、行動できるような教育が十二分になされています。そこには人間の力を信じてシステムが構築されていったという背景があります」と太田理事長は語った。同グループでは透析医療の黎明期から在宅透析を推進しており、一般の医学的な知識を持たない患者さんやその家族に対する指導を行っている。この点について太田理事長は、「指導のすべてを医師が行うことは時間的にも難しく、患者さんへの指導は主に看護師が行っています。患者さんには設立当時からカルテを開示して検査数値をご覧いただき、自己管理をしっかり行っていただくよう看護師が指導しています。それを支えるためにも看護師に対する教育は必要不可欠であり、充実した教育システムが構築されました」と語った。

慢性腎不全患者への支援システム

各部門・各施設名をクリックすると各インタビュー記事をご覧いただけます。



新生会看護部をご覧になりたい方はこちら